

# 低学年3組 図画工作科学習指導案

授業日 平成29年7月13日(木) 1・2校時  
授業者 附属新潟小学校 教諭 堀田 雄大  
会場 低学年3組教室

## 1 題材名

気分はレストラン！マイランチョンマット ―三角形と四角形を利用した平面表現―

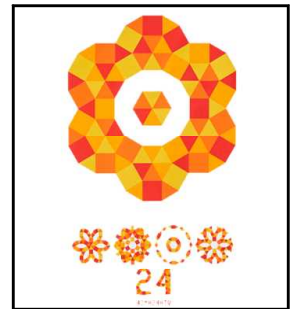
## 2 本題材の価値

本題材は、次期学習指導要領の第1学年及び第2学年の「A表現」に、次のように示されている。

### A 表現

- (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるようにする。  
イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。
- (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるようにする。  
イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。

本題材は、学級活動で行う「レストラン給食」のときに使うランチョンマットを楽しく飾るという目的をもち、様々な色の三角形や四角形を並べて、自分の表したいランチョンマットの絵飾りを平面に表す活動を行う。レストラン給食が楽しくなるという主旨を踏まえ、子どもは「花のような飾り」「星のような飾り」のように表したいテーマを決める。三角形や四角形は、1・2年生が算数の「かたち」の学習で扱われる内容である。子どもは本題材の前、身の回りの形探しを行ったり、色板で模様作りをしたりして形に親しんでいる。このような実態を踏まえ、本題材では2017年度、24時間テレビ「愛は地球を救う」で採用された野老朝雄氏作の「チャリTシャツ」のデザインを提示し形で表現することへの意欲付けを行う。このデザインは正三角形と正方形だけで、様々な花を表しており、子どもは「やってみたい」「面白そうだ」と製作意欲を高めることが期待される。



次期学習指導要領の目標に示されているように、これからの図画工作科では「生活や社会の中にある形や色と豊かにかかわる資質・能力」の育成が求められている。作品をつくりだすことだけでなく、作品をつくることを通して、生活の中にある造形の働きについての理解を深めようとしているのである。本題材で、子どもが給食で使うランチョンマットのように身近な事物を飾ることは、造形的な視点で生活の中にある事物を見直し、飾ることのよさや楽しさを理解することである。そして、様々な形を表したいものと結び付けて考え、その表し方を工夫する過程で発想や構想の能力、創造的な技能を発揮し、形や色と豊かにかかわる活動が期待できる。このように本題材は、図画工作科の「生活や社会の中にある形や色と豊かにかかわる」という点でも価値がある。

さらに、イメージを具体的に考えていくことができるようにイメージマップを活用させたり（ツール活用能力）、よりよい表現を考えられるように相互鑑賞をさせたり（協働性）する。

## 3 本題材で目指す姿

### 造形的な視点を基にイメージを広げ、表し方を工夫して表現する子ども

具体的には、**形や色に着目する、自分のイメージと表し方とを関係付けて考えるという「見方・考え方」**や**図形の構成要素に着目するという「見方・考え方」**を働かせて、給食を食べるときの雰囲気を楽しむためのランチョンマットの絵飾りのイメージを広げ、表現に必要な図形の特徴を生かして表す姿である。

活動例) 絵飾りのテーマを「ヒマワリのような元気で明るい花」にする。三角形を並べて、花びらの形をつくる。「元気な感じ」が出るように、花びらを大きく広げる。「明るい感じ」が出るようにオレンジや黄色を使う。ヒマワリの全体の形も、色を変えたり置き方を変えたりして（向きを変えたり、裏返しにしたりして）表す。

#### 4 本題材で育成する資質・能力

単元カード参照

#### 5 指導計画 全6時間(180)

単元カード参照

#### 6 指導の構想

まず、子どもは算数科の「かたち」の学習で、次のような学習を行っている。

1年生：形遊びの活動を通して、身の回りの様々な形（丸、三角、四角）見付けをしている。

2年生：点結びや形見付けの活動を通して、長方形、正方形、三角形の特徴を理解している。

特に、1年生の形遊びの学習では、生活の中にある様々な形を見付ける活動を行い、見付けた形を丸、三角、四角、その他に分類しておく。子どもは、生活の中にあるものが見方を変えると様々な形として見る事ができると気づき、もっと形見付けをしてみたいと考えている。また2年生は、色板を使って簡単な飾り作りを楽しんでおり、「もっとたくさん形を並べてみたい」と意欲を高めている。

次に、学級活動で「レストラン給食をしよう」という提案を受け、子どもは教室の雰囲気を変えて楽しい給食の時間にしていきたいと意欲を高めている。そして「音楽を流して給食を食べたい」「ウエイトレスをやってみよう」「机もイスも、いつもと並べ方を変えたり飾りを付けたい」「お盆の代わりに使ったオリジナルランチョンマットをつくりたい」などと考えている。

このような子どもに、図画工作科の学習で「気分はレストラン！ランチョンマットづくり」というテーマを提示する。表現意欲を高め、自分の表したいものを考えさせるためである。子どもは、「面白そう！」「どんなランチョンマットにしようかな」と題材への関心を示す。そこで、実際のランチョンマットで大きさを確認させた後、「このように作品をつくろうと思います」と、野老朝雄氏の作品を提示する（本題材の価値参照）。野老氏の作品が三角形と四角形だけでできている事実を提示することで、子どもは「これはすごい」「やってみよう」と制作意欲を高める。

子どもが制作意欲を高めたら、三角形と四角形の画用紙を提示して触れさせる。子どもは、様々な形作りからきっかけを見付け「野老さんみたいに、自分のオリジナルの花をつくりたいな」「僕は自分でオリジナルテーマを決めたいな。僕の好きな星がたくさんある感じがいいな」等と、イメージする。しかしイメージは、曖昧であり、どのように表そうかという見通しをもてていない。そこで、次のように働き掛ける。

##### 働き掛け1

「なにが」「どんな感じか」という視点を基に、表したいものをイメージマップでまとめさせた後、再度表したいものを問う。

イメージを具体化し、問いをもたせるための働き掛けである。

曖昧なイメージをもっている子どもに、表したいものの特徴を考えさせるために「なにが」「どんな感じか」という視点を与え、思い付くものをイメージマップでまとめさせる。子どもは、**形や色に着目するという「見方・考え方」**を働かせて、自分の表したいことについて発想・構想する力を発揮し（②思考力・判断力・表現力）、表したいものの具体的な部分や「〇〇な感じ」という特徴を想起し、イメージを具体化する（ツール活用能力）。

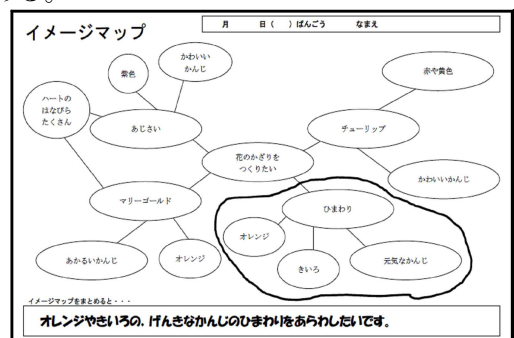
その後、改めて表したいものを問うと、「〇〇な感じの□□を表したい」と様々なイメージの中から具体的なイメージをまとめる。このように表したいものを具体的にイメージしている姿を問いをもったとみなす。

【イメージマップの例】

##### 働き掛け2

野老朝雄氏の「チャリティーシャツの花」の作品と試行錯誤している子どもの作品の一部を提示し、「どの材料を、どうやって表すか」と問う。

課題解決に必要な情報を収集させ、表現の見通しをもたせ、思考・判断・表現させるための働き掛けである。表したいものを具体的に考えている子どもが、必要な材料を考えていけるように、老朝雄氏の「チャリティーシャツの花」の作品と、試行錯誤している子どもの作品の一部を提示する。子どもは、「きっとこの色の三角は使えそうだ」「この三角と四角を組み合わせると〇〇の部分にな



りそうだ」と考え、イメージに合う表し方を予想する。

次に、表現方法を考えさせるために「どの材料を、どうやって表すか」と問う。子どもは、自分のイメージに合わせて表し方を考える力を発揮し（②思考力・判断力・表現力）「この三角形は、ダイヤの形とか台の形にしていくと花びらになる」「同じ色を使って広げたり、違う色を順番に使って並べたりするとできそうだ」等と考える。子どもが「作品の〇〇のように並べる」「作品の☆☆のように組み合わせる」等、どのような活動をすればよいか考えている姿が見られたら、見通しをもったとみなす。その後造形活動を促すと、子どもは、**自分のイメージと表し方とを関係付けるという「見方・考え方」**を働かせて、基礎的な用具を扱う技能（①知識・技能）、自分のイメージに合わせて表し方を考える力（②思考力・判断力・表現力）、造形活動に主体的に取り組もうとする態度（③態度）を発揮して三角形や四角形を並べて製作する。

### 働き掛け3

表したいものの内容や表し方の意図を伏せた状態で、タブレット端末を用いた相互鑑賞を行わせ、その様子を動画で記録させる。

自他の作品のよさや面白さを基に、よりよい表現を考えさせるための働き掛けである。

一通り表現した子どもが、自他の作品のよさや面白さに気付けるように、相互鑑賞の時間を設定する。この鑑賞は、それぞれの作品で表したものの内容や表し方の意図を伏せた状態で行う。

手順は次のとおり。

- ④ 撮影用のタブレット端末を一人一台用意する。
- ① 鑑賞したい友だちの作品の前に行く。
- ② 友だちの作品を見て、自分なりに「作品のよさや面白さ」を動画で記録する。
- ③ 自分の作品について友だちがレポートしている様子を、動画再生機能を使って確認する。

このような鑑賞活動を行うことで、子どもは友だちの作品をつぶさに見ることができ、自分なりの解釈をする中でそのよさや面白さに気付く（②思考力・判断力・表現力）ことができる。また、撮影された記録を見ることで、自分の意図とは違う解釈や、気付かなかったよさや面白さを知ることができる。そして、「次はもっと〇〇できそうだ」とよりよい表現方法へと目を向ける。この鑑賞活動で子どもは、**ツール活用能力**を発揮して撮影したり、**協働性**を発揮して互いのよさや面白さを伝え合ったりする。

相互鑑賞の後、よりよい表現を実現させるため、再度造形活動を促す。子どもは、友だちの表現や、レポートされて気付いたよさや面白さを基に、**自分のイメージと表し方とを関係付けるという「見方・考え方」**を働かせて、基礎的な用具を扱う技能（①知識・技能）、自分のイメージに合わせて表し方を考える力（②思考力・判断力・表現力）、造形活動に主体的に取り組もうとする態度（③態度）を発揮して、三角形の並べ方を工夫する。こうして、**造形的な視点を基にイメージを広げ、表し方を工夫して表現する子ども**となる。

### 働き掛け4

表現の過程が分かる写真や動画を提示し、「どんな作品ができたか」「どのように表したか」を問う。

発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

出来上がった作品と、表現の過程を記録した写真や動画を基に、学習を振り返らせる。子どもは「イメージ通りの作品ができた」「〇〇がうまくいった」等、感じたことを話す。そこで、「どんな作品ができたのか」「どのように表したか」という視点で、表現過程を振り返らせる。子どもは、表現の際に行っていた行為や、材料の使い方、工夫できた点などを振り返り、発揮した資質・能力を自覚する。

## 7 本時の構想（本時 4 / 6 時間）

### (1) ねらい

形や色に着目する、自分のイメージと表し方とを関係付けて考えるという「見方・考え方」や図形の構成要素に着目するという「見方・考え方」を働かせて、三角形や四角形を並べてできる形や色と自分の表したいものと関係付けて考え、三角形と四角形の組み合わせ方や色の特徴を生かして表すことができる。

### (2) 主張（展開）4 Q（60分）

このような子どもに（C0）

- ・ 楽しい絵飾りをつくりたいな。

- ・ 私は花の飾りにしたいな。
- ・ ぼくは、星をつくりたいな。
- ・ どんな花にしようかな。
- ・ どんな星にしようかな。

### このように働きかけると【働き掛け1】

- 「なにが」「どんな感じか」という視点を示す。
  - ・ 説明「みんないろいろなランチョンマットを考えているようですね。どんなランチョンマットなのかな」
- ※ 「こんなものを表したい」という子どもがいれば、数名の意見を採り上げる。その都度、「詳しく言うと?」「それはどんな感じ?」と問い返す。
  - ・ 指示「みんなの表したいものが、だんだん分かってきました。詳しく言うと『なにが』『どんな感じか』になるのかな」
- ※ どうやって考えられそうかを問い、イメージをまとめるためのツールを想起させる。
- イメージマップを配付する。
  - ・ 指示「みなさんに、イメージマップを配ります。自分が考える『なにが』『どんな感じか』が分かるようにまとめていきましょう」
- ※ イメージマップの一層目には、「なにが」、二層目には「どんな感じか」を記入させる。
- 表したいものを問う。
  - ・ 発問「イメージマップにまとめられましたか。では、あなたはどんなものを表したいですか」

### このようになり (G1)

- 自分の表したいものの部分やその様子を考える。
  - ・ 私が表したいものは、お花。
  - ・ お花にはいろいろな種類がある。ひまわりにマリーゴールド、チューリップもあるね。
  - ・ 僕が表したいのは、星。
  - ・ 流れ星や、惑星、天の川もあるね。
- イメージマップに表したいものの特徴をまとめる。
  - ・ 私の表したいものは・・・
  - チューリップーかわいいかんじ。赤や黄色の花びらがある。
  - マリーゴールドーあかるいかんじ。オレンジがある。
  - ひまわりーげんきなかんじ。オレンジや黄色の花びら。
- 自分の表したいものを具体的にイメージする。
  - ・ 私はオレンジやさいろのげんきなかんじのひまわりをあらわしたいたい。
- ※ .....のように、表したいものを考え、具体的なイメージをイメージマップにまとめて表したいものを記述している姿が見られたら、形や色に着目するという「見方・考え方」を働かせ、②思考力・判断力・表現力とツール活用能力を発揮し、問いをもったとみなす。

本時ここから

### このように働きかけると【働き掛け2】

- 前時までを振り返ったあと、野老朝雄氏の作品と試行錯誤している子どもの作品の一部を提示する。
  - ・ 発問「みなさんは、どんな○○をどんな感じで表したいと思っていますか」
  - ・ 指示「どんな作品になるか、楽しみですね。表したいものを考えているとき、こんな風につくろうとしている人がいました。また、野老朝雄さんは、こんな作品でした。みなさん、よく見てみましょう」
- ※ 補助発問「どんなことに気付きましたか」「どこを見てそう思いましたか」
- 「どの材料を、どうやって表しますか」と問う。
  - ・ 発問「では、これからみんなが表したいものを表すとき、あなたはどの材料を、どうやって表しますか」
- ※ 数人に指名し、使う三角形や四角形とその理由を発表させる。

- ※ 使う三角形とその理由の他に、形をどのように使うのかも問う。  
補助発問「それからどうなりますか」
- ※ 黒板に指名した子どもが使う形の使い方を位置付ける。
- 造形活動を促す。
  - ・指示「それでは活動を始めましょう。必要があればのりで貼っていきます」
- ※ 表したいものをさらに具体的にイメージするために資料がほしいという子どもには、様々なジャンルの動植物や乗り物がわかるカードを用意する。

### このようになり (G2)

- 前時までに考えていた自分のイメージを想起し、イメージに合いそうな形や色を考える。
  - ・元気な感じのひまわりを表したい。
  - ・ひまわりには、きれいな黄色やオレンジを使ってできそう。
- 三角形や四角形をどのように並べると自分の表したいものになるか、表し方の見通しをもつ。
  - ・三角形を三枚並べたら、花びらの形になるよ（ダイヤの形に変換する表し方）。
  - ・三角形と四角形を順番に並べていくと、カーブができるよ（曲線のように変換する表し方）。
  - ・順番に色を変えると、面白いね（意図的に色を変える表し方）。
  - ・色は青を使っていくよ（同じ色で面をつくる表し方）。
  - ・画用紙を重ねても面白そうだよ（重ねる表し方）。
- 自分の表したいイメージに合う色の付いた三角形や四角形を選ぶ。そして、選んだ形を並べたり、裏返したりして表したいものを表す。
  - ・私のイメージする花に使いそうな三角形は、この黄色とオレンジかな。
  - ・ダイヤをつなげて黄色の花びらをつくろう。
  - ・私も野老さんの作品みたいに、カーブを使って花びらをつくってみようかな。
 (活動例)
  - ・三角形をダイヤのように並べて、花びらの形をつくる。
  - ・「元気な感じ」が出るように、花びらを大きく広げる。
  - ・「元気な感じ」が出るようにオレンジや黄色を使う。
- ※           のように、活動中に三角形と四角形の色画用紙を組み合わせてできる形や色（多角形に変換する、カーブをつくる、順番に色を並べていく、重ねる）や色と自分の表したいものとの関係付けて製作する様子が見られたら、設定した①～③の資質・能力を発揮したとみなす。

### このように働きかけると【働き掛け3】

- 相互鑑賞の時間を設定する。
  - ・説明「様々な作品ができてきましたね。みんながいろいろなものを表しているようです」
  - ・指示「ここで、鑑賞の時間を取ります。周りを片付けて、自分の作品だけにします。友だちはどんな作品を表していたのかを考えて、ペアで活動しましょう」
- ※ 友だちの作品についてリポートした後、自分の作品についての記録を見直す時間を取る。
- ※ 友だちのリポートが聞こえるように、ヘッドホンを用意する。
  - ・発問「鑑賞して気付いたことはありますか」
- 再度造形活動を促す。
  - ・指示「では、もう少し時間を取ります。活動に入りましょう」
- ※ 画用紙、のり等、必要な道具を用意する。

### このようになり (Gn)

- 自他の表現のよさや面白さに気づき、よりよい表現を考える。  
(友だちの作品をリポートする)
  - ・〇〇さんの作品は、星のようですね。流れ星がキラキラしていて素敵ですね。
  - ・星の他に、天の川もありますね。大きくて立派な川ですね。
  - ・天の川には、いろいろな色の星も重ねてあってステキですね。
 (友だちからリポートされる)
  - ・花びらの部分の黄色がきれいだねと言われた。

- ・〇〇さんの天の川みたいに、重ねるとカラフルで面白そうだ。
- ・花をもっと元気な感じにしたいから、黄色やオレンジに合う色も重ねてみよう。
- よりよい表現になるように、三角形の並べ方や重ね方を工夫して表す。  
(活動例)
  - ・ヒマワリの全体の形も、色を変えたり重ねたりして表す。
  - ・三角形や四角形の向きを変えたり、裏返しにしたりして表す。
- ※           のように、友だちの表現のよさや面白さを基に、表現に必要な三角形や四角形の特徴(多角形に変換する、カーブをつくる、順番に色を並べていく、重ねる)を生かして表現する様子が見られたら、①～③の資質・能力を発揮したとみなす。
- ※ 自他の作品のよさや面白さを撮影したり、見直したりする様子が見られたら**ツール活用能力**を発揮したとみなす。
- ※ 友だちの作品のよさや面白さを見付けて、動画で記録したり伝え合ったりする様子が見られたら、**協働性**を発揮したとみなす。

(本時は、鑑賞活動まで)

#### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 表現活動の過程の分かる写真や動画を提示する。
  - ・指示「どんな活動をしていたか、振り返ってみましょう」
- 作品と表現過程について振り返る場を設定する。
  - ・発問「みんないろいろな活動をしていましたね。みんなは、どんな作品になりましたか。それは、どうやって表しましたか」

#### このようになる (C4)

- 自分の表現過程でしていた行為や様子を振り返る。
  - ・三角形と四角形を組み合わせて並べると、ヒマワリの花びらや花ができたよ。
- 学習のまとめとして、できあがった作品の特徴と表現方法とを振り返る。
  - ・表したいものをイメージマップで考えを広げて考えた。三角形の向きを考えて並べていったら、大きな花びらや元気な感じを表すことができた。(図画工作科②思考力・判断力・表現力)。

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け2と3を受けて、          及び          のように見立て、自分の表したいものと三角形でできる形とを関係付けて考え、表現に必要な三角形の特徴(つなげて多角形に変換する、配色を同じにしたり、順番に並べたりする)を生かして表現していたかどうかを、活動の様子や記録、実際の作品から検証する。
- ② 働き掛け1, 2, 3を受けて、次のような子どもの姿が見られたかどうかを、イメージマップの記述、活動の様子や記録から検証する。
  - ア.           のように、イメージマップに表したいものを具体的にまとめて、表したいものを考えている様子が見られたら、形や色に着目するという「見方・考え方」を働かせたとみなす。
  - イ.           や          のように、三角形を組み合わせてできる形や色を、表したいものに見立てている様子が見られたら、自分のイメージと表し方とを関係付けるという「見方・考え方」を働かせたとみなす。
- ③ 働き掛け1, 2, 3において、設定した資質・能力が発揮されたかどうかを、活動の様子や記録、実際の作品から検証する。

